

5年3組 国語科学習指導案

授業者 青山 千秋

1. 単元名 「生きがいを求めて」 (『100万回生きたねこ』佐野 洋子 作・絵 講談社)

2. 単元の目標

○「なぜ、ねこは生き返らなかったのか」を考えるために【会話や行動】、【場面】の叙述に着目して読むことを通して、語感や言葉の使い方に対する感覚を磨き、語彙を豊かにする。

[知識及び技能 (1) オ]

○「なぜ、ねこは生き返らなかったのか」という問い合わせに対し、中心人物や周辺人物の【会話】や【行動】、【変化】、【場面設定】などの叙述を読むことを通して、ねこの【心情】を解釈する。

[思考力、表現力、判断力等 C(1)]

○「なぜ、ねこは生き返らなかったのか」を考えるために読み進める中で、解釈が深まるよさを実感し、これからの読書生活に生かそうとする。

[学びに向かう力、人間性等]

3. 子どもと教材

「国語の授業で友達の発表を聞いていると『自分と似ているな』とか『そんな考えもあるんだ』って思って、自分一人で考えているよりもいい考えが出てくる感じがする」これは国語の授業終わりにある子が発した一言である。この子どもの発言に見られるように、4月から新たな仲間と共に過ごす本学級の子どもは、それぞれの解釈を交流し合うことで自身の解釈が広がったり深まったりする実感を得ている最中である。

4月に実践した『銀色の裏地』では、中心人物の【心情】の変化を読み取るために周辺人物の特徴を整理する必要感を覚えた子どもに対し、テレビアニメを例に出しながら人物関係図という方法でのまとめ方を提案し、作成した。そうすることで登場人物の設定を押さえるとともに、時間の経過によって中心人物の【心情】の変化や対人物との関係が変化していることに気付くことができた。その後、対人物が発した「銀色の裏地」という言葉がもつ意味について考えた際には、【心情】の変化を足掛かりにして「今は辛くてもきっといつか笑える日が来ることを伝えたかった」や「悲しみの裏側にも光はあるんだよっていう意味」など初読時から再解釈している姿が見られた。5月に実践した『せかいでいちばんつよい国』では、初読の際に題名読みを行った。それぞれがいだく「つよい」という言葉の概念を表出したところ「武力」「戦事力」「金銭的余裕」といった具体的な力や「相手を打ち負かすために必要なもの」といった抽象的な力などの意見が出された。実際に物語を読み進め「ちいさな国」は「おおきな国」に減ぼされなかつたという結末から「きっと『ちいさな国』にも強さがあるはずだ」と考えた子どもによつて「『ちいさな国』には、どのような『つよさ』があるのだろうか?」という「つよさ」を追究していく問い合わせが学級の中に生じた。この「つよさ」という言葉を中心に据えながら、ある時には「軍事力」、またある時には「包容力」といった様に多面的かつ多角的に「つよい」がもつ言葉の概念を交流し合うことで、自分がより納得できる概念へと再解釈していった。

子どもは国語科の学びにおいては物語の設定を共有し、議論することで解釈が深まっていくこと、そして物語に出てくる抽象的な言葉がもつ概念に対し、各々の「ものの見方」を発揮した解釈をぶつけ合うことで、言語感覚を磨き「言葉の力」を高めている。

本実践では『100万回生きたねこ』(佐野洋子 作・絵)を扱う。100万回の人生をそれぞれ異なる100通りの生き方をしてきたねこは、どの飼い主や環境に対しても「きらいでした」もしくは「だいきらいでした」という感情をいだき、「しぬのなんかへいきだったのです」とある。しかし「はじめて自分のねこ」になった100万1回目の人生で出会った白いねこには、自らかかわりをもとうとし、「そばにい

てもいいかい」と共に生きることを願った。やがて子ねこが生まれ、年をとり、「ある日、白いねこは、ねこのとなりで、しづかにうごかなくなつて」いた。ねこは初めて泣き、100万回も泣き、白いねこの隣で動かなくなり、けつして生き返ることはなかつたという物語である。

なぜ、ねこは生き返ることはなかつたのか。それは、ねこの命が全うされたからに他ならない。様々な飼い主からは愛されたが、ねこが飼い主を愛したことはなかつた。しかし、白いねことの日々の中で子ねこも生まれ家庭を築き「他者を愛し、他者から愛される」という経験をしたからこそ、生き返ることはなかつたのである。何者かの所有物ではなく自分の人生を生ききつたからこそ、「愛する」ということ」「愛される」ということ」「大切な人を無くす」という深い悲しみ」といった「生きることの意味」、すなわち「生きがい」を見出すことができたともいえるだろう。

冒頭にふれたように目の前の子どもたちは、互いの解釈など目に見えないものを交流し、それを広めたり深めたりする良さを感じつつある。だからこそ、だからこそ本実践を通して、ねこが人生に「生きがい」を見出すことができたように、それが人生を彩り豊かなものにしていくことに気付くための一助となることを切に願う。

4. 本単元における『その子らしく学ぶ』

『100万回生きたねこ』という題名を提示すると、「小さいときに読んだことある」や「題名を聞いたことがあるよ」、「100万回死んだねこじゃないっけかな」と自身の読書経験をもとに話し始めるだろう。子どもから出てくる「生きる」や「死ぬ」という抽象的な言葉について語り合うことで、今後の学習をイメージしながら物語と出合うことができるだろう。

教師の範読を聞いた子どもは、ねこが白いねこに出会い、子ねこが生まれた暮らしに対して「幸せそうになって良かった」やその白いねこが死んだことに対して「大好きな白いねこが死んじやつて可哀想」という感想をいだくだろう。また、物語全体をとらえている子は「今まで生き返ってきたのに、白いねこが死んだ後だけは、何で生き返らなかつたのか?」と人生の違いに着目した疑問をもつだろう。こういった感想や疑問を交流する中で「なぜ、ねこは生き返らなかつたのだろう」という問い合わせに収斂されていく。

第③時では、単元を貫く問い合わせである「なぜ、ねこは生き返らなかつたのだろう」を解決するために、物語序盤に焦点を当て「なぜ、100万回も生き返ったのか」を考えていく。どのような飼い主のもとで人生を歩んできたのかを読み解いていくことで、ある子は「きらいでした(だいきらいでした)」という叙述をもとに「誰かのもとにいても幸せになれないと思ったんじゃないのかな?一緒にいて幸せになれる人を探したかったんじゃない」と、またある子は「何か目的とかあったわけじゃないと思うよ。だって『死ぬのなんか平氣でした』って本文に書いてあるよね」と「ねこが100万回も生き返る理由」をそれぞれのものの見方で解釈していく。

第④時では誰の所有物でもなかつたねこがうつくしい白いねこと出会う場面を扱う。そつけない態度をとられたねこは、宙返りを披露したり、「100万回も死んだんだぜ」と自慢したりして気を引こうとする。近寄ってきためすねこたちとの接し方の違いにふれることで「なぜ、白いねこのそばにいることを願つたのだろうか」について考える場を設定する。「見た目が好きだったんじゃないのかな」と外見を根拠に解釈する子もいるだろうが、その意見も大切にしつつ今までねこの周りにいためすねこの姿と比較することで、白いねこの存在をとらえていく。例えば、めすねこたちは毛繕いをしてくれたり食べ物を持ってきてくれたりするが、白いねこはそのようなことはせず、ねこの言葉に対して「そう」とそつけない態度に終始する。それらの違いに気付いた子どもは「今まで何もしなくても近寄つてくれたけど、白いねこはそんなことないね」と読み取ったり、「今までの飼い主の時もねこは何もしなくても大事にされてきたよね」と飼いねこ時代と関連づけて考えたりするだろう。

第⑤時では「ねこはなぜ『おれは100万回も…』と決して言わなかつたのか?」について話し合っていく。その描写に隠されている、ねこの【心情】をそれぞれの言葉で解釈することが、ねこの【変化】を読み取る上で欠かすことのできないものになっていくだろう。

最終時の第⑥時では、今まで読み取ってきたことを活かして単元を貫く問い合わせ「なぜ、ねこは生き返らなかつたのだろう」の解決を図っていく。ある子は、白いねこや子ねこという愛すべき存在にふれ「ねこは幸せだったんだと思う。自分よりも大好きな存在と出会うことができて追い求めていたものに気づいたんだよ。達成感を手に入れたから、生き返らなかつたんじゃないかな」と解釈するだろう。また、ある子は白いねこの死をふまえ「自分よりも大好きな白いねこが死んでしまつたことに対して大きな悲しみを感じたんだと思う。100万回泣いたのはその証拠。もし、また生き返ったとしても、もうこんな素敵な存在に出会えないと思ったんじゃない」と解釈するだろう。それぞれが満足した理由について解釈をした後、最後に「白いねこと日々がねこに与えてくれたものは何だろうか」という問い合わせを投げかける。ある子は「誰かを好きっていう気持ちじゃないの?」と「愛」にまつわる心情を、またある子は「好きな人を失う悲しみ」という「痛み」にまつわる心情と解釈するだろう。こうして俯瞰的な読み方をすることで白ねこの存在が、そして、共に過ごした時間そのものが、ねこにとって「生きがい」であったことに気づいていく。その子が考える「生きがい」とするものを表出することで、その子の「その子らしさ」に出会いたい。

ねこが様々な他者との出会いを繰り返す中で、「生きがい」と呼べる大切な存在に出会い共に生きた日々を、文学の授業として追体験することで、人生において「生きがい」を見出すことの尊さ、そして、それによって日々が彩られていくことに本実践を通して気付けることを切に願う。

5. 単元構想（全⑥時間扱い／本時は第⑥時）

<教師の投げかけ>

子どもの表れ

最終時における子どもの表れ

○教師の働きかけ

① <『100万回生きたねこ』を読んだ感想を書こう >

- ・ねこは可哀想。いつも不運な感じで死んでしまっているから
- ・ねこは何で100万回も生き返ったのかな。そんなに生き返るのって大変そう。どうしても達成したい事があったのかな?
- ・かいねこじゃなくなつた時の方が幸せそうだよね
- ・ねこは最後、白いねこと出会えてよかったと思うから、この話はハッピーエンドだと思う

○初読の解釈を大切にするために、全員が書き終えるまで、全体での共有は行わない。

② < 感想を交流し合い、問い合わせをつくろう >

飼い主と飼いねこ

- ・ねこは何で飼い主たちのことを嫌いだつたんだろう?
- ・死に方が不運なことばかりだから、ねこのことを大切にしていた感じがしないな。可哀想
- ・何でいつも誰かのねこなの?

白いねことのらねこ

- ・白いねこや子ねこたちと過ごしている時間が一番幸せそう
- ・100万回泣きましたって書いてあるからそれだけ白いねこの死が悲しかつたんだね
- ・初めて好きな存在ができたね

- ・でも、やっぱり100万回も生き返る理由が分からんよ。死ぬのはへいきって書いてあるけど、何かしたい事があったのかな?
- ・そして、何で最後は生き返るのをやめたんだろう?もしかして、また生き返つたら、もっと素敵な出会いがあるのかもしれないよ

なぜ、ねこは生き返らなかつたのだろうか?

- ・きっと人生をやり切つたんじゃないの?満足した感じ。白いねことも出会えたし、子ねこもできて、もうやり残したことはない感じ
- ・満足していないと思う。それよりも、すごい深い悲しみがあつたから、生き返るのをやめちゃつたんじゃない

○それぞれの解釈に対して紐付たり違いを感じたりできるよう、第①時に出てきた解釈を一覧表にまとめて、第②時の冒頭に配付する。

○ねこと他者のつながりを意識することができるよう、飼い主と白いねことの関連を分類して板書する。

○見通しをもって学ぶことができるようにするために、子どもの疑問を整理して問い合わせを設定していく。

③< ねこはどのような飼い主のもとで生きてきたのだろうか? >

- ・王様のところだけど、戦争は嫌いだったと思う
- ・船乗りのところにいたよ。船乗りのことは嫌いだったみたい
- ・サーカスのねこだった時もあったよね

なぜ、ねこは100万回も生き返ったのだろうか?

- ・誰かのもとにいても幸せになれないと思ったんじゃないのかな?
- ・誰かと過ごすよりも一人の方が好きだって気付いたんだと思うな
- ・何か目的とかあったわけじゃないと思うよ。だって「しぬのなんかへいきでした」って書いてあるよね

④< のらねこのときはどんなねこだったんだろうか? >

- ・自分のことが一番好きだったんだよ。りっぱなとらねこだし
- ・「はじめてじぶんのねこになりました」って書いてあるから、やつと自分のやりたいことがやれるようになった感じじゃないの?
- ・すごくモテている感じだよね。自慢みたいなをして偉そう
- ・思い通りにならないことはないって思っていそう

なぜ、白いねこのそばにいることを願ったのだろう?

- ・今までの飼い主とかのらねこたちは何もしなくてもねこのことを好きだったんだけど、初めて自分から好きになったね
- ・プライドを傷つけられたのかもしれないね。「100万回しんだんだぜ」って自慢してもこっちを振り向いてくれないんだもんね

⑤< なぜ、ねこは「おれは、100万回も…」と決して言わなかったか? >

- ・今の生活が最高だと思ったんじゃないのかな?
- ・生きているのが楽しいんだから、「死ぬ」っていう言葉を言いたくなかったんだと思う。その方が良いことありそう
- ・自慢するものが死んだことよりも家族のことになったんだよ

⑥(本時) < なぜ、ねこは生き返らなかつたのだろう? >

自分の人生に生きがいを見出しができたから、もう生き返らなくてもいいと思ったんじゃないのかな?きっと誰かの飼いねこだったら、そういう思えないはず	誰かを大切に思う気持ちを知ったから、自分が死ぬことで、近くにいる人を悲しませたくない気持ちが生まれたんだと思う。二度と悲しませたくないよ	深い悲しみを知ってしまったから、生き返ることができないほどショックだったんじゃないの?だって初めて自分以外を好きになったんだよ	もし生き返ったとしても、白いねこの時間は二度と戻ってこないと思ったんじゃない?白いねこがいない人生なんて考えることができないんだよ
誰かを愛し、誰かに愛されることが人生において何よりも幸せだってことじゃないのかな	何かを手に入れたとかじゃなくて、自分がいたいと思う人と一緒にいれることの嬉しさだと思うよ	大切な存在を失うことは悲しいという気持ちだと思う。誰かとの幸せを知ったから悲しみも知った	

『100万回生きたねこ』を読むと、命あるものが死んでしまうのは避けられないことだと思う。だけど、「大好きな人のために」みたいな「生きがい」を見つけられる人生が幸せなんだよ

○今までの飼い主と白いねこを比較して違いに気付くことができるよう分けて板書する。

○ねこの行動が変化していく背景にある【心情】の変化を読み取ることができるよう、飼いねこ時代やのらねこ時代を比較する問いかけをする。

○白いねこと一緒にいる時間がねこにとってとても幸せであることに目を向けられるよう、「なぜ、ねこは自由を手放しても満足なの?」と問いかける。

○ねこの【心情】の変化に目を向けられるように、のらねこだった時に言っていた状況と比較する。

○单元を貫く問い合わせに対する解釈が充分にできるよう、第⑤時の最後に書く時間を設ける。

○様々な解釈があることを視覚的に理解することができるよう、項目ごと分けて板書する。

○「白いねこの死」ではなく、「白いねこの時間の価値」にも目を向けられるよう「そのような悲しみを知るくらいなら、白いねこと出会えない方が良かったのか?」など問いかける。